

第四次国有林野施業実施計画書

第四次変更計画

(中予山岳森林計画区)

計画期間 [自 平成26年4月1日]
[至 平成31年3月31日]

[変更年月 平成30年3月]

四 国 森 林 管 理 局

第四次国有林野施業実施計画（中予山岳森林計画区）の変更について

【変更理由】

- ① 主伐・再造林の実施に伴う更新量・保育量の増
- ② 密度調整が必要な林分の見直しによる間伐の変更
- ③ 台風により発生した崩壊地の早期緑化を図るための保安林の整備等の追加
- ④ 保護林制度改正に伴う保護林設定対象森林等の見直し

【変更する項目】

- 2 施業群の名称及びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量
 - (4) 伐採総量
 - (5) 更新総量
 - (6) 保育総量
- 4 治山に関する事項
- 5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域
 - (1) 保護林の名称及び区分

2 施業群の名称及びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(4) 伐採総量

(単位：m³、ha)

区 分	林 地					林地 以外	合計
	主伐	間伐	小計	間伐種	計		
山地災害防止タイプ	—	212 (2)	212				
自然維持タイプ	—	<u>334</u> (8)	<u>334</u>				
森林空間利用タイプ	—	1,752 (28)	1,752				
快適環境形成タイプ	—	—	—				
水 源 涵 養 タ イ プ	スギ分散伐区	25,890	—	25,890			
	ヒノキ分散伐区	12,826	10,108 (55)	22,934			
	スギ長伐期	—	<u>70,024</u> (514)	<u>70,024</u>			
	ヒノキ長伐期	—	43,921 (395)	43,921			
	スギ長伐期複層林	—	156 (2)	156			
	ヒノキ長伐期複層林		5,161 (56)	5,161			
	択伐	—	1,976 (18)	1,976			
	計	38,716	<u>131,346</u> (1,039)	<u>170,062</u>			
合 計	38,716	<u>133,644</u> (1,077)	<u>172,360</u>	11,900	<u>184,260</u>	—	<u>184,260</u>
年 平 均	10,557	<u>25,828</u> (215)	<u>36,385</u>	2,380	<u>38,766</u>	—	<u>38,765</u>

注1：()は、間伐面積である。

注2：単位未満四捨五入により、計と内訳は必ずしも一致しない。

(再掲) 市町村別内訳

(単位：m³)

市町村名	林 地					林地 以外	合計
	主伐	間伐	小計	臨時伐採量	計		
久万高原町	38,716	133,644	172,360				

注：臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(5) 更新総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ [○]	自然維持 タイプ [○]	森林空間 利用タイプ [○]	快適環境 形成タイプ [○]	水源涵養 タイプ [○]	合 計
人工 造林	単層林造林	—	—	—	—	113	113
	複層林造成	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	113	113
天然 更新	天然下種第1類	—	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	—	—	—	—	8	8
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	8	8
合計		—	—	—	—	121	121

(6) 保育総量

(単位：ha)

分		山地災害 防止タイプ [○]	自然維持 タイプ [○]	森林空間 利用タイプ [○]	快適環境 形成タイプ [○]	水源涵養 タイプ [○]	合 計
保 育	下刈	—	—	—	—	175	175
	つる切	—	—	—	—	6	6
	除伐	—	—	—	—	54	54

4 治山に関する事項

位 置	区 分	工 種	計 画 量
1、15～18、20、21、37～40、42、44	保安林の整備	その他 (森林整備)	<u>315.03ha</u>
		計	<u>315.03ha</u>
1、3、4、16、20、[38、40]、[42、43]、[44、45]	保全施設	溪間工	<u>8箇所</u> (<u>56.90ha</u>)
3、4、16、39、43、45、67		山腹工	<u>7箇所</u> (<u>2.13ha</u>)
		計	<u>12 箇所</u> (<u>59.03ha</u>)
計	保安林の整備	その他	<u>315.03ha</u>
		計	<u>315.03ha</u>
	保全施設	溪間工	<u>8箇所</u>
		山腹工	<u>7箇所</u>
		計	<u>12箇所</u>

注1：林班 [] の区分は、事業評価の地区単位。保全施設の計は、溪間工・山腹工で重複する箇所は1箇所とする。

注2：災害復旧等緊急を要する場合には、計画箇所以外においても実行できることとする。

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

種 類	名 称	新・既	面積 (ha)	位置 (林小班)	特 徴 等
森林生態系 保護地域	いしづちさんけい 石鎚山系	既 設	保存地区	7は 8い2、ろ2 9ほ1 10全 11い1、い2、ろ、は、イ 13イ 14イ 17ろ1～ろ3、イ、ロ	約1,300mの標高 差があり、温暖 帯から亜寒帯ま での林相の垂直 分布を見ること ができる。シコ クシラベ、ダケ カンバ、ブナ、 ミズナラ、コハ ウチワカエデ、 モミ、ツガ、ウ ラジロガシ等の 多様な樹種とと もに、希少な動 植物種が生育・ 生息している。
			保全利用 地区	3は、に、ロ1～ロ3 4ろ、は、イ、ロ1、ロ2 5い1、ろ1、ろ2 6全 7い1、ろ、に2～に5、に 7 8い1、ろ1、イ1、イ2 9い、ろ、は、は1、に、 ほ2、 ～1、～2、イ、ロ1、ロ 2、ハ 12い1 13い1、は6～は9、に1、 と 14い、ろ、は、に1～に5、 ほ、 ～1、～2、ロ 15ほ1、～1 16ほ1 17ほ1、ハ 18～1、イ	
			2,921.70		

注) 森林生態系保護地域は、我が国の気候帯又は森林帯を代表する原生的な天然林を主体とする「保存地区」と、保存地区に外部からの影響が直接及ばないよう緩衝の役割を果たす「保全利用地区」に区分している。